



平成 27 年 10 月 14 日

各 位

東京都大田区大森北 1 丁目 1 番 10 号
会社名 株式会社 大庄
代表者名 代表取締役社長 平 了寿
(コード番号 9979 東証第 1 部)
問合せ先 専務取締役 水野 正嗣
(TEL 03-5764-2229)

特別損失の計上、繰延税金資産の取崩し及び 平成 27 年 8 月期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 8 月期決算において、特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しを行いましたので、下記の通りお知らせいたします。また、平成 27 年 4 月 14 日に公表した平成 27 年 8 月期の業績予想と実績値との差異につきましても、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

当社は、平成 27 年 8 月期において下記の通り特別損失の計上を行います。

(1) 連結

合計で 562 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 364 百万円
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。
- ②固定資産除却損 129 百万円
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。
- ③店舗関係整理損 53 百万円
店舗閉鎖後に発生する費用等を計上いたします。
- ④店舗閉店損失引当金繰入額 12 百万円
閉鎖予定店舗に関わる賃貸借契約に基づく違約金及び空家賃等についての引当金を計上いたします。
- ⑥固定資産売却損 2 百万円
店舗閉鎖時に売却した設備の売価と簿価の差額等を計上いたします。

(2) 個別

合計で 605 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 364 百万円
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。
- ②固定資産除却損 129 百万円
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。
- ③店舗関係整理損 53 百万円
店舗閉鎖後に発生する費用等を計上いたします。
- ④子会社株式評価損 42 百万円
当社が保有する子会社株式のうち、実質価額が著しく下落したものについての減損処理を計上いたします。
- ⑤店舗閉店損失引当金繰入額 12 百万円
閉鎖予定店舗に関わる賃貸借契約に基づく違約金及び空家賃等についての引当金を計上いたします。
- ⑥固定資産売却損 2 百万円
店舗閉鎖時に売却した設備の売価と簿価の差額等を計上いたします。

2. 繰延税金資産の取崩し

当社における繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、当該繰延税金資産の一部を取崩すこととし、連結ベースで法人税等調整額 1,734 百万円、個別では 1,732 百万円を計上いたしました。

3. 業績予想との差異について

(1) 連結

通期連結業績予想との差異（平成26年9月1日～平成27年8月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	71,480	920	885	250	12円09銭
実績値（B）	70,765	190	181	△2,049	△99円06銭
増減額（B－A）	△715	△730	△704	△2,299	—
増減率（％）	△1.0	△79.3	△79.5	—	—
前期実績 （平成26年8月期）	73,116	△1,054	△1,147	△1,607	△77円70銭

(2) 個別

通期個別業績予想との差異（平成26年9月1日～平成27年8月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	61,900	800	770	220	10円64銭
実績値（B）	61,221	32	24	△2,140	△103円47銭
増減額（B－A）	△679	△768	△746	△2,360	—
増減率（％）	△1.1	△96.0	△96.9	—	—
前期実績 （平成26年8月期）	63,622	△1,152	△1,238	△1,652	△79円88銭

4. 業績予想との差異の理由

(1) 連結業績予想との差異の理由

売上高につきましては、既存店売上高が前年比累計では101%と前年は上回って推移したものの、計画数値は下回って推移したことが大きく影響し、前回予想を下回りました。

一方、営業利益、経常利益につきましては、売上原価率は計画以上に低下したものの、前期より取り組んでいる「業務構造改革」が推進途上にあり、販売管理費が計画以上に増加したことが影響し、前回予想を下回りました。

また、当期純利益につきましては、上記の通り、法人税等調整額を計上したことが大きく影響し、前回予想を下回りました。

(2) 個別業績予想との差異の理由

売上高につきましては、既存店売上高が前年比累計では101%と前年は上回って推移したものの、計画数値は下回って推移したことが大きく影響し、前回予想を下回りました。

一方、営業利益、経常利益につきましては、売上原価率は計画以上に低下したものの、前期より取り組んでいる「業務構造改革」が推進途上にあり、販売管理費が計画以上に増加したことが影響し、前回予想を下回りました。

また、当期純利益につきましては、上記の通り、法人税等調整額を計上したことが大きく影響し、前回予想を下回りました。

以上